



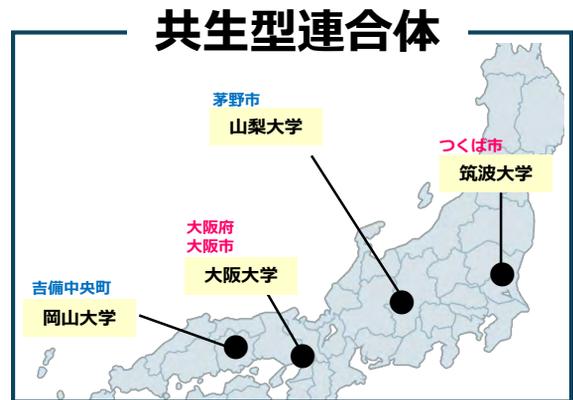
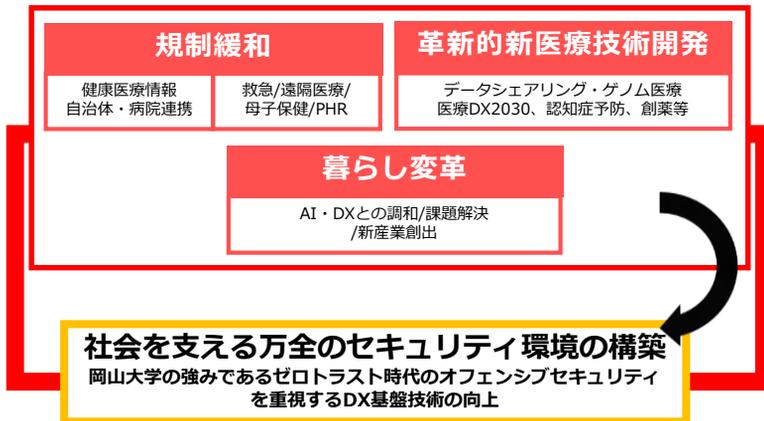
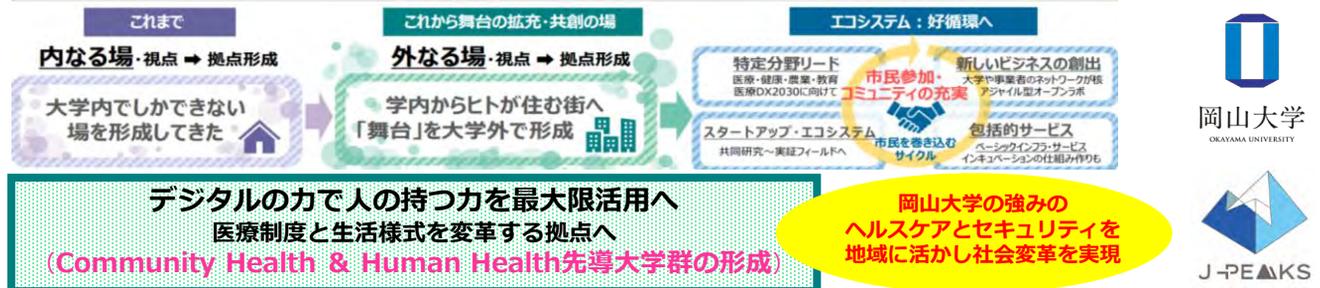
TOPICS

1

取組2「イノベーション創出によるWell-being社会の実現」
についての紹介

長期ビジョン2050「地域と地球の未来を共創し、世界の革新に寄与する研究大学」の実現のため、J-PEAKS事業では4つの取組を進めます。今回は、4つの取組のうちの取組2についてご紹介します。

取組2 イノベーション創出によるWell-being社会の実現



取組2では、産学官によるデジタル田園都市国家構想の先導・拡充により、心身のWell-being・人の健康(Human Health)および安心・安全に暮らせる地域の健康(Community Health)の実現に取り組みます。

① 全国展開を可能とする強固な連携体制

国家戦略特区に関連する大学(共生型連合体:筑波大学、山梨大学、大阪大学、岡山大学)、自治体および産業界との連携体制を強固なものとし、規制緩和、革新的医療技術・製品開発に取り組みます。また、岡山県北部の自治体との連携関係を有する津山高専と連携し、岡山県を起点に成果を全国展開します。

② イノベーションによる安心・安全快適な生活の提供

農業・林業・物流のDX化やドローン・電動車いす・EVから収集されるモビリティログデータを活用した技術開発・実証研究から地域住民が真に必要とするサービスを提供し、安心・安全かつ快適な生活を送れる環境を創生します。

統括アーキテクト：岡山大学長 那須保友

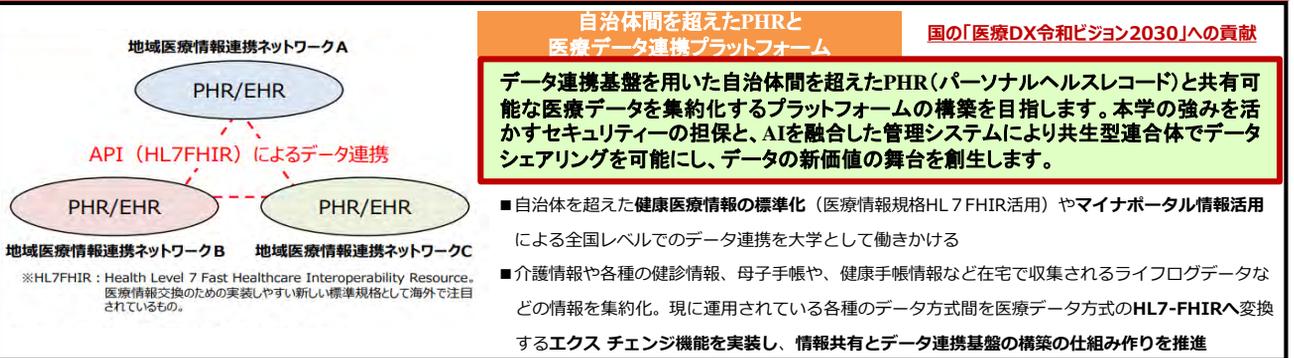
DXを軸に産学官連携により
誰一人取り残されないコミュニティを創生



おかやまDXコア：
DXをキーワードに学内外の
多様な人材が融合する場・仕組み
(デジタルシンクタンク機能)



新価値・新産業創出
スタートアップの舞台



③ デジタル田園健康特区事業の規制改革案の実現とサービス事業の展開

少子高齢人口減少自治体の課題に対する規制緩和施策の働きかけとモデル事業の拡大、オンライン診療の拡大と遠隔指示による採血検査の実現、医師の指示下での救急救命士による車内エコー検査行為の実証開始、母子保健・子育てDX事業や救急DXサービスの他地域へ提案・導入を推進し、実証数の増加、実証のスピード化を促し、現行医療に沿いつつ、医療を用いた関わる全ての方のWell-beingを目指す規制緩和策に取り組みます。

④ データ連携基盤を用いた自治体間を超えたPHRと医療データ連携プラットフォームの構築

PHR(パーソナルヘルスレコード)と共有可能な医療データを集約化するプラットフォームの構築を目指します。本学の強みを活かすセキュリティーの担保と、AIを融合した管理システムにより共生型連合体でオープンにデータシェアリングを可能にし、データの新価値の舞台を創生します。

○ 那須保友学長のコメント

課題も多いデジタルヘルスサービスにおいて、デジタルの力を活用し、医療制度改革や社会変革を引き起こすことで人の健康(Human Health)を実現します。また、実証・検証を通じ学生や研究者と住民が寄り合い、少子高齢化人口減少社会における地域のあり方を確立させることで住民の心身のWell-beingの向上と地域の健康(Community Health)を実現します。



TOPICS
2総合技術部テクニカルリサーチャー（TR）の辞令交付式
を開催～地域中核・特色ある研究大学：岡山大学の基
盤強化と次世代技術人材の実践的育成を開始～

本学技術統括監理本部の総合技術部は、テクニカルリサーチャー（TR）の辞令交付式を開催しました。

TRは、岡山大学独自の取り組みで、大学院生を技術補佐員として雇用し、総合技術部における技術業務および教育支援業務等の補佐を行います。

本件はJ-PEAKSの一環である研究基盤の強化等に資する取り組みであり、本学における技術力基盤の強化を図るとともに、学生の研究力・指導力を磨きつつ、自身が持つ技術を業務へ適応させる能力を向上させ、次世代の技術職員や社会変革を成すナレッジワーカー等の育成強化を目的としています。



参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id13196.html

TOPICS
3高等先鋭研究院資源植物科学研究所の馬建鋒教授が
米国植物生物学会Dennis R. Hoagland Awardを受賞

米国植物生物学会年会（American Society of Plant Biologists, ASPB）の授賞式にて、本学高等先鋭研究院の資源植物科学研究所の馬建鋒教授がDennis R. Hoagland Awardを受賞しました。

馬教授は長年植物のミネラル輸送機構に関する研究を行い、数々のミネラル輸送体を世界に先駆けて同定し、その制御機構などを解明してきており、わが国が世界に誇るトップ研究者です。2016年に本学会の在外終身名誉会員賞を受賞しています。

J-PEAKS事業においても本学の強みである植物分野の研究で地球の健康（Planetary Health）の実現を目指します。



参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id13208.html

TOPICS
4高尾知佳講師（医）がAMED「再生・細胞医療・遺伝子治療
実現加速化プログラム（再生・細胞医療・遺伝子治療
研究開発課題（基礎応用研究課題）」に採択

本学学術研究院医歯薬学域（医）組織機能修復学分野の高尾知佳講師が、国立研究開発法人日本医療研究開発機構（AMED）の「令和6年度再生・細胞医療・遺伝子治療実現加速化プログラム（再生・細胞医療・遺伝子治療研究開発課題（基礎応用研究課題）」に採択されました。

高尾講師は、「ヒト軟骨前駆細胞を利用した気道狭窄疾患再生医療等製品の開発に向けた基礎研究」という研究開発課題名のもと採択。J-PEAKS事業でも、本学の「最重点研究分野」のひとつであるヘルスケアにより、Well-beingの向上を戦略的に推進しています。



参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id13256.html

TOPICS
5

岡山大学の「BIZENエコシステムによる地域産業振興事業」がAMED「優れた医療機器の創出に係る産業振興拠点強化事業(スタートアップ支援強化枠)」に採択

岡山大学病院は、これまでの医療機器開発支援、スタートアップ支援実績を軸として、「BIZENエコシステムによる地域産業振興事業」を計画し、国立研究開発法人日本医療研究開発機構(AMED)の「優れた医療機器の創出に係る産業振興拠点強化事業(スタートアップ支援強化枠)」に採択されました。医療・ヘルスケアの革新的技術開発により、社会を変革し、J-PEAKSの活動をさらに加速させます。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id13236.html

TOPICS
6

筑波大学発ベンチャーのサイバーダイン社と、世界初の装着型サイボーグHAL®を活用した事業アイデアについて検討する「岡山リビングラボ」を開催

本学大学院ヘルスシステム統合科学研究科とおかやまスタートアップ支援拠点運営委員会は、「岡山リビングラボ」を開催しました。

筑波大学発ベンチャー、サイバーダイン株式会社とHAL®を用いたリハビリ事業を展開する岡山ロボケアセンター株式会社を迎え、HAL®を活用した事業アイデアについてワークショップ形式で検討しました。

本学は国家戦略特区に関係する筑波大学、山梨大学、大阪大学と共生型連合体を組成し、J-PEAKS事業を通じた、医療制度の規制緩和や革新的新医療技術開発、地域の暮らし変革に取り組んでいます。



参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id13260.html

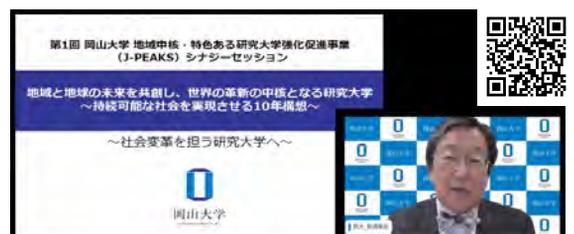
TOPICS
7

第1回 岡山大学 地域中核・特色ある研究大学強化促進事業(J-PEAKS)シナジーセッションを開催～わが国の研究大学の山脈を築くためのシナジーの種をまく～

他大学などとシナジーの種を広く育むことなどを目的として「第1回 岡山大学 地域中核・特色ある研究大学強化促進事業(J-PEAKS)シナジーセッション」をオンラインで開催しました。

本セッションでは、那須保友学長から岡山大学J-PEAKSの全体ビジョンと4つの取り組みについて、本学J-PEAKS担当者の佐藤法仁副理事・副学長・上級URAからはJ-PEAKS事業申請の組成と実施の仕組みづくりについて紹介し、あわせて活発な質疑応答を行いました。

本学は、他大学・研究機関との「競争」ではなく、「共創」を重視してJ-PEAKS事業に取り組むことで、ありがたい未来の姿への実現を加速させるだけでなく、わが国の研究大学の山脈を形成し、社会変革を生み出す行動を起こしています。



参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id13219.html

TOPICS
8

JSPS主催「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業（J-PEAKS）キックオフシンポジウム」に那須学長が登壇

日本学術振興会（JSPS）主催・文部科学省共催の「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業（J-PEAKS）キックオフシンポジウム」が開催され、本学からは那須保友学長が登壇しました。

J-PEAKS事業を岡山大学長期ビジョン2050の実現のための手段のひとつとして用い、全学を挙げて取り組みを戦略的に推進していることなどを紹介しました。

採択大学同士の「共創」をもとに活動し、本学も他大学とともにわが国の研究大学の山脈（PEAKS）を形成、社会変革の実現を目指します。



参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id13249.html

TOPICS
9

高等先鋭研究院異分野基礎科学研究所の菅倫寛教授がJST「2023年度創発的研究支援事業」に採択

本学高等先鋭研究院を構成する組織のひとつである異分野基礎科学研究所の菅倫寛教授が、国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）の「2023年度創発的研究支援事業」に採択されました。本創発的研究事業では今までの研究を飛躍的に発展させ、「光合成ベシクルを用いた光エネルギー変換の統合的理解」をテーマに実施します。

J-PEAKS事業では、菅教授ら若手研究者を「個人」ではなく「群」「層」として支援し、社会変革を成す研究・イノベーションの強化促進を行っています。また菅教授らはJ-PEAKS事業の取組を担うトップ研究者のひとりでもあり、その活動にご期待ください。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id13230.html

TOPICS
10

環境省「令和6年度地域ぐるみでの脱炭素経営支援体制構築モデル事業」に採択～産官学金で中小企業の脱炭素経営を推進～

本学は、環境省「令和6年度地域ぐるみでの脱炭素経営支援体制構築モデル事業」に、大学としては全国で唯一採択されました。本事業を通じて、産学官金での連携により岡山における地域ぐるみでの脱炭素経営支援体制を構築します。

まずは中小企業ならびに支援機関の実情や課題を整理したうえで、ターゲットに応じた支援アプローチの検討を行い、産学官金での支援者間連携による地域ぐるみでの支援体制の構築を図ります。そして、本学がプロジェクトリーダーを務める産学官金DX支援コミュニティ「DXサンライズおかやま（DXSUN）」との連携により、脱炭素（GX）とDXの両面で支援を行うことにより、脱炭素への取り組みから企業の成長に繋げるための活動を推進します。

J-PEAKS事業において、地域経済との共創、そして大学のシンクタンク機能強化などは重要な点です。本事業を含めて、岡山大学の社会変革を成すための挑戦にご期待ください。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id13239.html

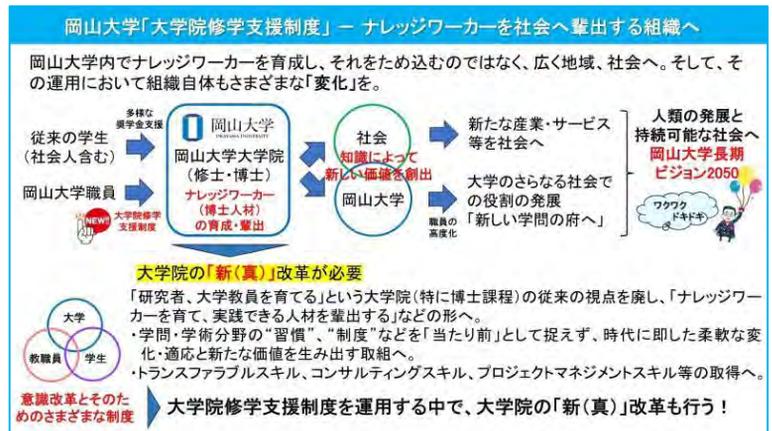


岡山大学「大学院修学支援制度」を始動～大学職員の高度化のひとつの手段としてナレッジワーカーとしての博士人材を育成・活用し、かつ大学法人経営や大学院改革の強化へ～

大学職員の高度化を成すため、ナレッジワーカーとしての博士人材の育成・活用を行い、その仕組みとして大学院修学支援制度を本年度秋学期から開始します。本年度は技術職員の博士の学位取得を開始し、来年度からは対象者を全大学職員に拡大し、修士の学位取得も開始します。

他にも学生を対象に、文部科学省「科学技術イノベーション創出に向けた大学フェローシップ創設事業」やJST「次世代研究者挑戦プログラム(SPRING)」、「次世代AI人材育成プログラム(博士後期課程学生支援)(BOOST)」など、多種多様な支援制度を運用しています。

J-PEAKS事業を契機に、博士人材の登用、大学職員の「高度化」を加速させ、知識から新しい価値を創造できるナレッジワーカーを育成することで本学の長期ビジョン2050の実現させます。



参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id13202.html



イテオシの研究設備

極低温プローブによる高感度測定



核磁気共鳴装置「JNM-ECZ600R」は、3種類のプローブとオートサンプラーを付属した600MHz NMR装置です。

本装置は、本学津島キャンパスの理学部コラボレーション棟に設置され、化学・生化学・医学・薬学など様々な分野の方にご利用頂いています。

デフォルトで使用している極低温プローブ(SuperCOOLプローブ)は、検出回路を冷媒により冷却することで非常に高感度で、より少量の試料で、より少ない積算回数で高分解能なスペクトルが得られます。低分子量の有機化合物から生体関連物質、高分子材料まで広範囲の物質の分子構造の決定、電子状態や立体構造の解析にご活用ください。

ご利用は、研究設備機器共用システム「コアファシリティーポータル(CFPOU)」の以下のURLから詳細を閲覧可能です。

J-PEAKSの取組では、大型分析装置等の中・四国の機器共用ネットワーク拠点の構築や、先端設備の整備、技術人材の高度化等を通じて、イノベーション創出の「知」と「技」のメッカを目指します。

本装置や共同利用の設備に関するお問い合わせはこちら：cfp@okayama-u.ac.jp

参考 <https://corefacility-potal.fsp.okayama-u.ac.jp/equipment/view/836>

